



質問

スイッチバックを観光資源に

町長

スイッチバックツアーは5本



スイッチバックを行く列車

系原 壽之 議員

質問 奥出雲町の観光として、スイッチバックをメインとした観光の現状は。

町長 三段式スイッチバックは木次線の代名詞でもあり、現在、

観光協会で15本の木次線を活用したツアーを造成し、その内坂根から三井野原間を利用するツアーは5本で、昨年度は995人、全体の5割が利用している。

質問

令和16年度の町の人口をどれくらいと推計し、行財政の計画を立てているか。

その内、生産年齢15歳から65歳までの人口はいくらで、また全体の何割と見込んでいるか。

その中で、仁多米生産に携わる人口と生産量はいくらずで、それは今の量と比べて何割増かあるいは減であるか問う。

町の10年後の推計人口構造は

町長 令和16年度、2034年度は計画策定の期間外であるため、人口を推計した資料は無い。財政計画も無い。計画の基礎数値として用いる人口は、国立社会保障・人口問題研究所の資料に基づいたもので、本町が独自に推計したものではない。同研究所も人口に関する統計指標等を基に逐次見直しを行っているもので、

だが、5年刻みで公表される同研究所の2018年3月の数値を用いている。

直近のところで人口は、2035年は8392人で、生産年齢人口は3629人で43.2%である。

農業従事者は令和2年2月実施の農林業センサスで3454人、水稲生産面積は1362haで人口面積共に、減少傾向である。

その他の質問

10年後の高齢者の生活環境は
地籍調査の一層の推進を
農業用施設の整備を



将来の担い手が学ぶ横田高校

計画策定の都度最新の数値を活用している。
本町の最上位計画第
二次奥出雲
町総合計画
は、2023年5月に
改定してい